深い学びのために

学習のポイントの解答例

1　**「寂しさや」の句について、「かちたる」とは、何が何に、どのような点で勝ったのか、まとめてみよう。**

【答】種の浜が須磨に、寂しさがつのる風情があるという点で勝った。

▼ポイント▲　種の浜を訪れた作者が、夕暮れの寂しさに感動している場面である。さらに、上五に「寂しさや」という表現があることから、主題は「寂しさ」であることがわかる。

言葉と表現の解答例

1　**「波の間や」の句について、「波」「小貝」「萩の塵」を取り合わせたことで、どのような効果が生まれているか、話し合ってみよう。**

【答】色彩の対比が鮮やかにイメージされる効果など。

▼ポイント▲　小貝や萩がどのようなものなのか、生徒たちが調べてみるところから始めるとよいだろう。萩の花が赤いことに気づくと、赤い花が波間に浮かぶ映像がイメージされ、さまざまな議論が展開されると思われる。

言語活動の解答例

1　**「ますほの小貝拾はんと」（一〇六・2）とあるが、作者はなぜこのようなことをしようとしたのか、話し合ってみよう。**

【答】（意図）「ますほの小貝を拾」うという行為をなぜ行ったのか、西行の歌を手掛かりに考えさせ、作品の読みを深めさせる。
（手順）
1　西行の和歌（一〇六・脚注2参照）を読み、現代語訳するなどして、歌に詠まれている内容を把握する。
2　芭蕉が西行をどのように思っていたのか、資料集などで調べる。
3　西行の歌と同じ行為を行った理由と、行うことによってどのような効果があるかについて、話し合う。
（ゴール）古人と同じ行為を追体験することで、自分の旅の感動を古人の事績や歴史的背景と重ねあわせ、多くの人（読者）と共有しようとしている作者の意図を読み取らせたい。

（小林　俊洋）